

平成28年11月29日  
(2016年)

保護者の皆さまへ

吹田市立南山田小学校  
校長 藤原 博史

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

本年4月、6年生を対象として「平成28年度 全国学力・学習状況調査」を実施し、10月上旬には個人ごとに結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

### 『平成28年度 全国学力・学習状況調査』とは・・・

#### ◇教科に関する調査（国語・算数）

- ・主として「知識」に関する内容 ⇒ 学習における基礎基本的な力を調べます。
- ・主として「活用」に関する内容 ⇒ 知識技能を実生活の様々な場面に活用する力を調べます。

#### ◆生活習慣や学習環境等に関する調査（質問紙調査）

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関するアンケート調査です。

本調査は小学校最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを先ず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが調査本来のねらいであると考えます。このたびの調査結果を客観的且つ組織的に分析することにより、どのような指導形態がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小・中学校における連続した取り組みとなるよう、具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果を今後の家庭学習の指針としてご理解のうえ、参考にさせていただきますようお願いいたします。

## I. 教科に関する調査の分析

### 1. 国語《概要》

◎A（知識）問題、B（活用）問題とも平均正答率が全国値を上回っています。

#### 話すこと・聞くこと

話し手の意図を明確にしたり、自分の考えと比べたりすること、また目的に応じて質問したいことを整理する問題は全国値をかなり上回っていましたが、質問紙調査の「自分の考えを他の人に説明することは難しい」と思っている割合は全国平均をやや上回っています。本校の努力目標である「豊かに表現する力」について、引き続き全校的な取り組みを進めていく必要を感じます。

#### 書くこと

具体的な事例を挙げて説明する文章を書く問題は、全国値を上回るものの、グラフを基に分かったことを明確に書くことについては正答率が低く、課題が見られます。

#### 読むこと

物語に登場する人物像について、複数の叙述を基にして読むなど、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える問題は、全国値を大きく上回りました。目的に応じて複数の文章

を比べて自分の考えを明確にしながら読む問題は、全国値は上回るものの正答率が低いため、他教科の学習や日常生活においても高めていきたい課題だと感じます。

## 2. 国語《主な成果と課題・今後の指導改善点について》

基本的な漢字の読み書きや、話すこと、聞くことなどはしっかりと身につけています。また、無回答率は、全体的に全国値よりも下回っていますが、教科・領域ごとの詳細な結果分析においては、B問題の選択式の設問で、全国値を上回る傾向が見られました。今後は、課題となる以下について取り組みを進めてまいります。

- ・言語に関する知識や技能は身につけています。文章と図を関係付けて自分の考えを的確に書くことや、活動報告文において課題を取り上げた効果を捉えることには課題が見られました。今後も引き続き、授業の中で幅広い言語文化に触れることを大切にしたい指導に努めていきます。また、平仮名で表記されたものをローマ字で書くことや、ローマ字で表記されたものを正しく読むことについては、正答率が全国値を下回るとともに正答率も低く、この結果を踏まえて取り組む必要性がある課題と考えています。
- ・読むことについては、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題に課題が見られるため、今後も学習を深めていく必要があります。また、グラフを基に分かったことを的確に書くことにも課題が見られました。引き続き、どの教科においても、日々の授業の中で自分の考え・意見をまとめたり、書き表したりする活動を多く取り入れていく必要があります。今年度の努力目標である「豊かに表現し、互いに高めあう力を育てる授業づくり」に努めてまいります。

## 3. 算数《概要》

◎A（知識）問題、B（活用）問題ともに平均正答率が全国値を上回っています。

### 数と計算

概ね全国値を上回りましたが、示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述する問題では、正答率が低い結果となりました。

### 量と測定

概ね全国値を上回りましたが、示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適応して、その説明を記述する問題では、正答率が低い結果となりました。

### 図形

概ね全国値を上回りましたが、示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述する問題では、正答率が低い結果となりました。

### 数量関係

概ね全国値を上回りましたが、グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述する問題では、正答率が低い結果となりました。

## 4. 算数《主な成果と課題・今後の指導改善点について》

質問紙調査で「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートにかいていますか」に8割以上の子どもが肯定的な回答をしています。また、「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」に「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と7割以上の子どもが答えており、全国平均を上回っています。基礎基本の定着はもとより、数学的な

思考が求められる問題にも粘り強く取り組む力など、これまで取り組んできたことに一定の成果を見ることはできました。今後も引き続き次のような視点から取り組みを進めてまいります。

- ・計算の意味理解に重点を置きながら、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図ります。
- ・友達との間で話し合う活動を積極的に取り入れ、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて根拠を明らかにし、筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりする力を育成するよう、今後も取り組んでまいります。

## II. 学習意欲や学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査の傾向

### 1. 学習環境・生活環境について

- ・「学校は楽しい」に対する回答は、肯定的な回答が約76%ありますが、全国値を下回りました。
- ・「学校のきまりを守っている」「友達との約束を守る」「いじめはいけない」などの規範意識は高く、全国値を上回りました。
- ・「人が困っているときは、進んで助ける」と答えた児童は、大阪府値を上回り、全国値とほぼ同じでありました。
- ・「朝食を毎日食べる」など基本的な生活習慣を問う項目について、ほとんど肯定的な回答でありました。
- ・「家の手伝いをしている」と答えた児童の割合は、全国値を上回りました。
- ・「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と答えた児童の割合は、全国値を大きく下回りました。
- ・家庭学習は、平日・休日ともにしている割合が、全国値を下回っており、全くしない割合も高いものでした。また、「計画を立てて勉強する」は、全国値を下回っており、予習・復習をしている割合も低く、家庭での学習よりも学習塾等、家庭以外の場所で勉強している子ども達の姿が伺われます。今後は、宿題に調べ学習などを取り入れ、子ども自身が取り組み方について、主体的に決められるような機会を設けていきます。
- ・テレビゲームを2時間以上している割合が、全国値を下回りますが、22%います。スマートフォンで通話やメール・インターネットしている時間が2時間以上の割合が1割に満たないけれども居ます。様々な携帯機器との上手な付き合い方を考えていく必要を感じます。
- ・「新聞を読んでいる」の項目では、約65%が「ほとんど、全く読まない」と回答しています。一方で、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」は、約86%が肯定的な回答をしています。
- ・「学級みんなで協力して何かやり遂げ、うれしかったことがある」や「自分には、よいところがあると思う」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」の項目は、肯定的な回答が多く、全国値とほぼ同じでありました。今後も子ども同士が関わり、協力し合う場面を数多く設定し、その良さやお互いの良い所を感じ合うことのできる指導を継続して行っていきます。

## 2. 教科・学習について

- ・「友達の前で、自分の考えや意見を発表することは得意という児童は、全国平均を大きく上回るものの、60%弱にとどまりました。しかし、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞く」という児童が90%と全国平均を大きく上回り、「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う」と回答した児童も、75%ありました。
- ・5年生までの授業で、「授業の中で目標が示されていた」と答えた児童が90%、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」「ノートに学習の目標とまとめを書いていた」「課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた」という児童が約80%おり、全国値を上回りました。
- ・「読書が好き」という児童が全国値を大きく上回りました。また、1日あたりの読書時間が全国値を上回っており、読書が習慣として身につけていると考えられます。
- ・「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くこと」について、抵抗を感じない児童の割合は、全国値を上回りました。
- ・国語や算数の授業で学習したことが「大切だと思う」と答えた児童は約90%、「将来の役に立つ」「どうしてそうなるのかわけを考える」「解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」と答えた児童は、約80%でありました。
- ・一方で、「段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいる」「もっと簡単に解く方法がないか考える」と答えた児童は約75%、「普段の生活の中で活用できないか考える」「うまく伝わるように話の組立を工夫している」「目標に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」と答えた児童は約60%であり、全国値を下回りました。

## Ⅲ. 今後の取組み

本校では、今年度の努力目標のテーマを『豊かに表現し、互いに高め合う力を育てる授業づくり』と設定し、児童一人ひとりの表現する力と友達とともに紡ぎあう力を持った子どもの育成を目指し取組みを進めております。特に、友達との意見交流を授業の中で生かせるよう、話し合いの整理を行い、自分の考えを伝えられるような取組みを引き続き行ってまいります。

また、1時間1時間の授業の「めあて」を明確にし、児童の主体的・協働的な活動を伴った学習に今後も取り組んでまいります。南山田小学校の子ども達が、授業に受け身の姿勢で臨むのではなく、能動的に自ら学び、そして友達とともに学ぶ中で身につけた活用する力が育つ授業づくりを進めてまいります。